

2020年3月4日

越谷市教育委員会
教育長 吉田 茂 様

越谷市教職員組合
執行委員長 川上 誠

新型コロナウイルス感染拡大防止のための 「臨時休校措置」に係る要望書

2月27日、安倍首相は、首相官邸で開いた政府の新型コロナウイルス感染症対策本部の会合で「全国全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に対し、3月2日から春休みまで臨時休校とするよう要請する」と表明しました。新型コロナウイルスの感染拡大防止の上では避けられない措置ではあるものの、この期間は、年度末を迎え、児童・生徒の将来に係る進路決定や一生の思い出となる行事等も予定されています。しかし、これらの要請や通知を受け、全国各地の教育委員会や学校では、児童生徒の安全確保や授業、学校行事、入学試験への対応等について多くの課題が生じ、大きな混乱を招いています。また、多くの保護者から「仕事を休むことができない」「子どもをどこに預けるのか」等の悲痛な声があがっています。

各学校における休業日等の設定は、地域や児童生徒の実態を踏まえ各学校の設置者が行うものです。児童生徒への感染リスクを検討し、臨時休校を行うことが必要である場合でも各学校の設置者が、児童生徒の命と健康を守ることを最優先にした専門家・教育関係者の英知を結集し、それぞれの地域や学校の実態を踏まえて対応すべきです。今回の安倍首相による要請は、専門家の知見に基づく十分な検討を経て行われたものではありません。また、政府内でも十分に検討されているとは言えないものです。今回の安倍首相の発言は、学校現場や地方教育委員会の実態を踏まえない、あまりにも拙速なものであり、かえって大きな混乱を引き起こしています。文科省は「お願いする」というもので、必ずしも一斉に休校の措置をするという内容ではない」としています。臨時休校の時期等を含む新型コロナウイルス感染症対策については、各学校や教育委員会が、児童生徒や地域の実態を踏まえ、主体的に検討し判断することでした。

市教育委員会では、国・県の休校要請を受け、直ちに臨時校長会開き、各学校に対し「3月2日から春休みまでの臨時休校」「卒業式の中止」等の指示を出しました。現場は「なぜ、2日からなのか」「今日で子どもたちとお別れ？準備が間に合わない」「授業が終わっていない」等の悲痛な声が渦巻き、大混乱となりました。委員会内では地域の実態を踏まえた十分な検討がなされたのでしょうか。疑問が数々と沸いてきます。なぜ、慌てて2日からの臨時休校措置としたのでしょうか。突然すぎて準備が間に合わないことは、容易に想像できたのではないのでしょうか。それだけ急ぐ危機的な状況の変化が起こったのでしょうか。学校や社会の受け入れ態勢が整わないままの性急な判断に対して怒りをもって強く抗議します。現場の混乱を避けるためにも市教委の休校措置等の判断に至った根拠の丁寧な説明と市民・保護者や教職員の声に寄り添った具体的な対策、環境整備等、柔軟な対応を行っていくことが求められています。

そこで、私たち教職員組合は、子どもたちの命と健康・安全を確保することと子どもたちの学習権を保障する立場から、以下のことを要求いたします。誠意ある回答をお願いいたします。

記

- 1 休校措置等の判断に至った根拠の丁寧な説明を行っていくこと。
- 2 臨時休校措置の期間については、専門家の知見を踏まえ、感染拡大防止に留意しながら 越谷市の実状や学校の状況を考慮し、臨時休校措置の短縮等、柔軟に判断していくこと。
- 3 今後の学校運営の見通しについて校長を通して丁寧に説明していくこと。
- 4 学校預かりで登校している児童に対しては、傷害共済給付の対象にすること。
- 5 臨時休校で子どもの世話をしなければならない教職員に対して特別休暇を付与すること。